

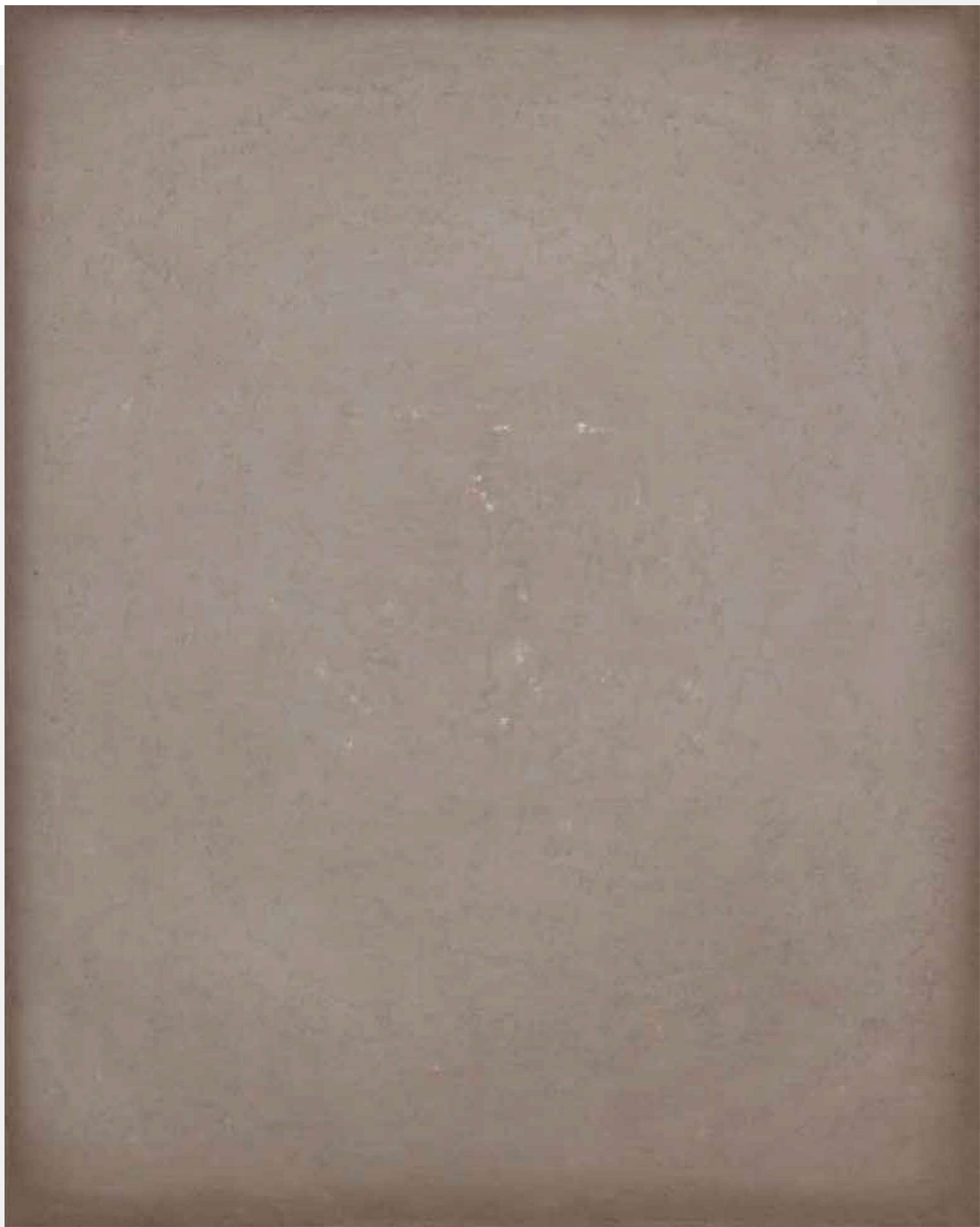
大浦一志——雲仙普賢岳／記憶の地層

KAZUSHI OOURA: MT. UNZEN FUGEN / STRATA OF MEMORY

2023.09.04 MON——10.01 SUN 武蔵野美術大学 美術館・図書館

MAUM&L
Musashino Art University Museum & Library

11:00—19:00 | 土・日曜日、祝日は10:00—17:00 | 休館日:水曜日 | 入館料:無料





1



2



3



4

長崎県島原半島の中央に位置する雲仙普賢岳は1990年11月17日、「島原大変」と呼ばれる1792年の大噴火以来、198年ぶりに噴火活動を再開しました。1995年2月まで続いた噴火活動は、幾度にもわたり火砕流と土石流を引き起こし、地域一帯に甚大な被害を与えました。中でも1991年6月3日に発生した大火砕流は、報道関係者や地元消防団員など43人もの死者・行方不明者を出した大惨事となりました。大浦一志は、この火砕流で亡くなった新聞記者のカメラに残された「襲いかかる火砕流」の写真を新聞紙上で目にし、大きな衝撃を受けました。

日常、私の内にくすぶりつづけていた「おまえは何を見ているのか」という私自身への問いが、必然的にこの一枚の写真へと、そしてその写真の元へ、自然のエネルギーにのみ込まれ、藝術のない人間の営みの「今」を、現実の自然を見なければ……「普賢岳」へ向かわせた。
——1998年「第27回現代日本美術展」カタログ挨拶文より

そして翌1992年、大浦は初めて島原を訪れます。この時の動機を、「情報化社会に突入した時代の中で、“実像としての現実”を自らの肉体で受け止めることが必要だった」と大浦は語ります。以降、今日に至るまで30年間東京の自宅と被災地を往還し続け、その回数は50回以上に及びます。本展では火砕流による熱風で焼失した民家跡から掘り出した「玄関扉」「軽トラック」をはじめ、1990年代から2000年代にかけて制作した作品群、2010年代以降展開してきた被災民家跡発掘プロジェクトの様子などを、大浦の手記や記録写真・映像とあわせて展示します。普賢岳の麓で大浦が見た風景、過ごした時間を身近に感じていただけるものと思います。

復興事業の進行とともに災害の痕跡が消えゆく被災地で、大浦は地面を掘り起こしては埋め、埋めては掘り起こす行為を繰り返しながら、出来事を克明に記録し、大地と対峙し続けてきました。雲仙普賢岳の噴火という「自然の圧倒的なエネルギー」に、自らの身体を通して向き合い、生きることのリアリティを問う大浦の活動を通観する機会とします。

大浦一志 おおうら・かずし

1953年、兵庫県生まれ。1975年、武蔵野美術短期大学専攻科デザイン専攻商業デザインコース修了。トラック運転手、NHKサービスセンターデザイン室、勝井三雄デザイン事務所を経て1980年よりフリーのグラフィックデザイナーとして活動。一方で、写真を媒介に身の周りの物事に眼差しを重ね、「見ること」の深さを問う作品制作を展開してきた。1992年以降、東京の自宅と長崎県南島原市を往還しながら、火山噴火による被災物の掘出しや採取、定点観測によるフィールドワーク「普賢岳プロジェクト」を行い、自然と人間の営みの関わりを探り続けている。1997年第26回現代日本美術展毎日現代美術大賞を受賞。2003年より武蔵野美術大学共通絵画研究室教授。

大浦一志——雲仙普賢岳／記憶の地層

KAZUSHI OOURA:

MT. UNZEN FUGEN / STRATA OF MEMORY

会期 | 2023年9月4日[月]–10月1日[日]

会場 | 美術館展示室1・2、アトリウム1・2

開館時間 | 11:00–19:00(土・日、祝日は10:00–17:00)

休館日 | 水曜日

入館料 | 無料

主催 | 武蔵野美術大学 美術館・図書館

協力 | 武蔵野美術大学共通絵画研究室

同時開催 | 生誕100年

大辻清司 眼差しの先 フォトアーカイブの新たな視座

関連イベント |

[アーティストトーク]

日時 | 2023年9月9日[土] 15:30–17:00

出演 | 大浦一志

[特別対談]

日時 | 2023年9月16日[土] 15:30–17:00

出演 | 大浦一志、樺木野衣(美術評論家、多摩美術大学教授)

武蔵野美術大学 美術館・図書館

〒187-8505 東京都小平市小川町1-736

042-342-6003

<https://mauml.musabi.ac.jp/museum/>

Twitter, Instagram: @mau_m_1

交通アクセス |

・西武国分寺線「鷹の台」駅下車、徒歩18分

・JR中央線「国分寺」駅北口4番停留所より西武バス「武蔵野美術大学」行または「小平営業所」行に乗り、「武蔵野美術大学正門」停留所下車(バス所要時間:約25分)

・JR中央線「立川」駅北口5番停留所より立川バス「武蔵野美術大学」行に乗り、「武蔵野美術大学」停留所下車(バス所要時間:約25分)

*お車でのご来場はお控えください



1:噴煙がたのぼる溶岩ドーム | 1994年

2:《杉並区阿佐谷南3丁目23-13～普賢岳「再立」1994.10.09-11 | 1995年 | 印画紙、土石、灰、炭、木、FRP | 171.7×225cm | 埼玉県立近代美術館蔵 | 撮影:いしかわみちこ

3:《軽トラックを掘り起こす | 1998年 | 撮影:佐藤充

4:《杉並区阿佐谷南3丁目23-13～普賢岳1998.07.10-2-4 | 1998年 | 画用紙・印画紙(フォトローリング) | 42×59.2cm | 作家蔵 | 撮影:いしかわみちこ

表面:《杉並区阿佐谷南3丁目23-13～普賢岳1991.06.03 | 2023年 | キャンバス、火山灰、和のり | 226×182cm | 作家蔵 | 撮影:いしかわみちこ